

# 家庭における室内緑化植物の利用実態と利用者の意識

下村 孝<sup>1</sup>・黒宮ゆかり<sup>1\*</sup>・上町あずさ<sup>2</sup>

<sup>1</sup>京都市立大学人間環境学部 606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

<sup>2</sup>平安女学院大学生活環境学部 569-1092 大阪府高槻市南平台5-81-1

## Actual Condition of Usage of Indoor Foliage Plants in the Home and Consciousness of Users

Takashi SHIMOMURA<sup>1</sup>, Yukari KUROMIYA<sup>1\*</sup> and Azusa UEMACHI<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Fac. Human Environ. Kyoto Prefec. Univ., Shimogamo Hangi-cho, Sakyo, Kyoto 606-8522, Japan

<sup>2</sup>Heian Jogakuin Univ., Nanpeidai, Takatsuki-shi, Osaka 569-1092, Japan

### Summary

A questionnaire survey was conducted among dwellers to investigate the actual conditions of use of interior plantscaping in their homes. Sixty-seven% of the respondents used indoor foliage plants in their houses. Respondents reported that they placed such plants in their homes for interior ornamentation (69%) and for a feeling of comfort (61%). Twenty-eight% of respondents expected an improvement in indoor air quality by putting plants in rooms. The highest rate of placement of indoor plants was in living rooms, while the second highest placement rate was in entrance halls. However, 37% of respondents who were using indoor plants in their homes indicated that they could not place plants in the rooms where they wanted to put them. Especially in entrance halls of apartments, it seemed difficult to place plants because of inadequate light intensity. It was suggested that the designing of apartment houses should include a consideration of the environment conditions required for interior plants. Plants such as Pothos (*Epipremnum* spp.), i.e., easy to grow, were preferred and were also used more often. Weeping fig (*Ficus benjamina* L.) was liked by many respondents because of its attractive shape and texture. Most respondents seemed to think that interior plants that are easy to grow under indoor condition were desirable, and also that their sizes, shapes and textures should be harmonized with the rooms in which they were placed. Many respondents expressed concern about the possible difficulty of growing interior plants indoors, which resulted in a hesitation about using indoor plants in their homes. These results suggest that plant materials suitable for a variety of indoor conditions should be proposed, and that investigations are needed into how best to grow and manage them indoors.

**Key words** : indoor plants, interior plants, foliage plants, plantscaping, home, consciousness

室内植物, 観葉植物, 室内緑化, 家庭, 意識

### 緒 言

ガーデニングブーム以降, 人々の住まいの周辺での花や緑への関心が高まり, 庭やベランダなどの屋外に

とどまらず, 室内でも多くの人々によって緑が楽しめるようになった(下村ら, 2002)。一方, 室内の緑が人間に与える影響についてこれまでに様々な研究がなされており, 室内空気浄化, 揮発性有機化学物質の除去(Yooら, 2006), 温熱環境・快適性向上(浅海ら, 1994), 視覚疲労回復(浅海ら, 1995)および安らぎ・ストレス軽減(仁科ら, 1998; Lohr・Pearson-Mims, 2000)などの効用が報告されている。Pearson-Mims・Lohr(2000)は快適性や生産性を向上させるオフィス内の緑化植物の必要性を述べているが, 家庭に

2006年11月19日受付。2007年3月6日受理。

\*現トステム株式会社 136-8535 東京都江東区大島2-1-1

\*Present address : Tostem Corporation, Ojima, Koto-ku, Tokyo 136-8535, Japan.

人間・植物関係学会2002年大会にて内容の一部を報告した。

Table 1. Questionnaire list of indoor foliage plants, from which respondents would choose in their homes.  
第1表. アンケート添付資料に示された室内緑化植物のリスト.

植物の形態的特徴		目線の高さ またはそれ以上	肩の高さくらい	腰の高さくらい	ひざの高さ またはそれ以下
葉または 植物体が 細長い もの	垂れ下がっ たもの	ドラセナ・ コンキンナ 'トリカラー'	トックリラン	青年の樹	アレカヤシ
	ピンと とがった もの	ドラセナ '細葉サンデリー'	サイウンカク	サンセベリア・ トリファスキアタ	ミルクブッシュ
葉が広い もの	葉が大きい もの	アポロゴムノキ	モンステラ	アロカシア	クデナンテ・ ブルレー マルクシー
	葉が小さい もの	斑入りカポック	ベンジャミン	コーヒーの木	ジャックと マメの木

においても室内緑化植物の効果的な利用により、居住空間の快適性を向上させることができると考えられる。

これまでに商業空間や職場における室内緑化植物の配置の実態やその効果についての研究（下村ら, 1988; Fjeld, 2000; 今西ら, 2002）はあるが、家庭における室内緑化植物の利用実態についての研究はほとんど行われていない。ハウスメーカーによる観葉植物の利用に関するアンケート調査（積水ハウス総合研究所納得工房, 2000）では、観葉植物を枯らした経験があると回答した人が82%いたと報告されており、利用実態をさらに調査し、家庭の室内環境下で植物を栽培するうえでの問題点を明らかにする必要性が示唆された。また、人々にとって快適といえる緑化空間を創り出すには室内緑化および緑化植物に対する人々の意識や好みも考慮することが必要であると考えられるが、この視点での研究も見あたらない。

本研究では、家庭における室内緑化植物の利用実態および利用者の意識を調査することにより、居住空間における室内緑化植物利用の課題および問題点を明らかにするとともに居住者にとっての快適性を向上させる室内緑化のあり方を探った。

## 調査方法

2001年8月4日に、高の原駅西団地（京都府相楽郡）、ナチュラルガーデン高の原（奈良市）、およびローレルスクエア登美ヶ丘Ⅱ（奈良市）の住宅にアンケート用紙をそれぞれ740, 360, 193部配布し、8月7~9日に回収ポストへの投函依頼または戸別訪問によって合計368部（28%）を回収した。また、9月26日に関西文化学術研究都市ハイタッチ・リサーチパーク（京都府相楽郡）内の13の企業の社員に対しアンケート用紙を300部配布し、10月10日に214部（71%）を回収した。企業内での配布および回収は各企業の総務担当者に依頼した。さらに、11月22, 23日に京都

市左京区下鴨中川原町および下鴨貴船町の京都府立大学周辺の住民を戸別訪問してアンケート用紙を184部配布し、同日中の再訪問あるいは郵送依頼により106部（58%）を回収した。以上の結果、アンケートの回収総数は688部（38%）となった。

アンケートの質問事項のうち、室内緑化に関する要望を尋ねた設問では、まず、家の中に植物を置く場合、どこに置きたいかを選択してもらい、その場所に望ましい植物の高さ、その高さの望ましい植物およびその植物を選んだ外観上の理由を回答してもらった。植物の種類については、アンケート添付資料に示した植物のリストの中から選択するよう求めた（第1表）。添付資料には、選択肢となる16種類の植物を高さと形態により第1表のように分類して提示し、植物のカラー写真、種・品種名および育て方もあわせて記載した。なお、植物の名称には、青年の樹（*Yucca elephantipes* Regel）、ジャックとマメの木（*Castanospermum australe* Cunn. et Fraser）など一部、市場流通名を用いた。

## 結 果

### 1. 回答者の属性

回答者の居住する住居形態は集合住宅で64%と、戸建て住宅（34%）のほぼ2倍であった。回答者の性別では女性が68%であった。年代では30代が30%と最も多く、ついで40代（21%）、50代（18%）、20代（15%）および60代（14%）となり、幅広い年代から回答が得られた。また回答者の職業としては、主婦が40%と最も多く、ついで会社員（33%）であった。家族構成では「夫婦のみ」、「夫婦と末子年齢6歳未満」、「夫婦と末子年齢6歳~17歳」および「夫婦と末子年齢18歳以上」がいずれも約20%であり、様々な家族構成の家庭から回答を得ることができた。家族構成員としては、1人が8%、2人が23%、3人

Table 2. Indoor foliage plants preferred by respondents' favor, and the reasons why they were favored (n=405).  
第2表. 好きな室内緑化植物とそれを好きな理由 (n=405).

好きな植物 <sup>2</sup>	回答率 (%)	好きな理由 <sup>3</sup> (回答率: %) <sup>x</sup>
ポトス	18	育てやすい (68) 葉が好き (7)
ベンジャミン	14	植物の姿 (44) 育てやすい (12)
パキラ	7	育てやすい (52) 植物の姿 (21)
ドラセナ類	6	育てやすい (35) 植物の姿 (15)
サボテン類	6	育てやすい (70) 植物の姿 (4)
ヘデラ	3	育てやすい (54) 植物の姿 (38)

<sup>2</sup>上位6種まで示した.

<sup>3</sup>各植物を好きな理由を上位2項目まで示した.

<sup>x</sup>各植物を好きな人のうち、これらの各理由を挙げた人の率.

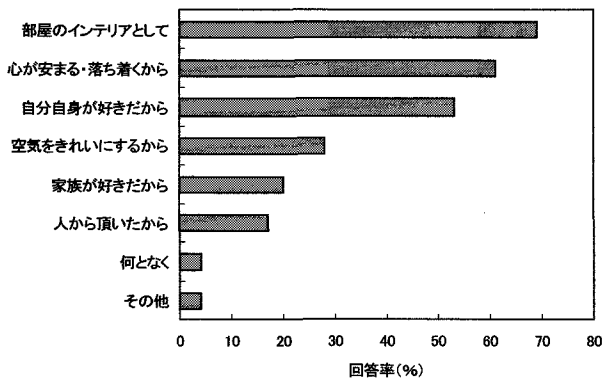


Fig. 1. Reasons provided for having indoor foliage plants in homes (n=457, multiple answers).

第1図. 家庭に室内緑化植物を置いている理由 (n=457, 複数回答).

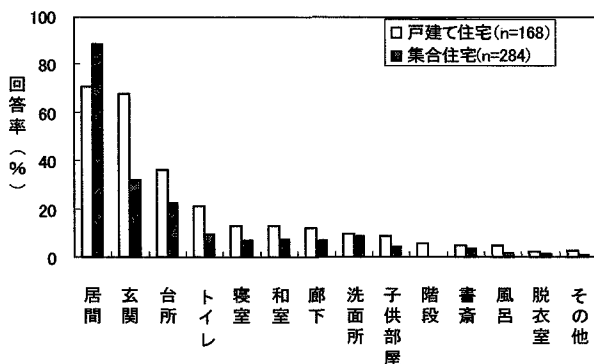


Fig. 2. Locations where respondents placed indoor foliage plants in homes (multiple answers).

第2図. 家庭において室内緑化植物を置いている場所 (複数回答).

が27%, 4人が28%, 5人が9%, 6人が2%であった。

## 2. 植物の好みについて

好きな室内緑化植物を1種類挙げてもらったところ、ポトス (*Epipremnum* spp.) が最も多く、ついでベンジャミン (*Ficus benjamina* L.), パキラ (*Pachira aquatica* Aubl.), ドラセナ類 (*Dracaena* spp.) と続いた (第2表)。好きな理由としては、ほとんどの植物で「育てやすい」が最も多かった。また、好きな理

由として「植物の姿」も多く、ベンジャミンでは最多 (44%) であった。

## 3. 家庭における室内緑化の実態

### 1) 室内緑化植物の有無と植物を置いている理由

自宅の室内に植物を置いている人は67% (457人) で、置いていない人が33% (230人) であった (データ略)。住居形態別では、植物を置いている割合は戸建て住宅居住者 (71%) が集合住宅居住者 (65%) より少し高かった。置いている理由では、「部屋のインテリアとして」が69%と最も高く、ついで「心が安まる・落ち着くから」(61%), 「自分自身植物が好きだから」(53%) の順となった (第1図)。また、「空気をきれいにするから」という回答も28%あった。

### 2) 植物を置いている場所と置かれている植物

回答者が植物を置いている場所は、戸建て住宅では「居間」「玄関」ともに70%前後であるのに対し、集合住宅では「居間」が88%と特に多く、「玄関」は32%と顕著に低かった (第2図)。どんな植物を家の中に置いているかを尋ねたところ、1,404件の有効回答のうち、総計157種の植物名が示され、利用者の選ぶ植物の種類が多様であることが明らかとなった。その中でも、ポトスが17%と最多であり、ついでドラセナ類 (10%), パキラ (6%), ヘデラ (*Hedera* spp.) (6%), ベンジャミン (5%) となった (データ略)。

### 3) 室内緑化植物を置きたい場所に置くことができるか

室内に植物を置いている人に、置きたいと思う場所に植物を置くことができるかどうかを尋ねたところ、全体で37%の人が「置くことができていない」と回答し、住居形態別では、戸建て住宅居住者の30%, 集合住宅居住者の42%が「置くことができていない」と回答した (データ略)。さらに「置きたい場所に置くことができていない」と回答した人にその理由を記述してもらったところ、戸建て住宅居住者では「スペースがない」などの物理的要因が最多 (51%) で、ついで「日光が当たらない」などの室内環境要因 (27%) が多かった (第3図)。一方、集合住宅居住者では室内環境要因が最多の46%であり、物理的要因は30%であった。また、「置きたい場所に置くことができていない」と答えた集合住宅居住者のうち、44% (52人) が実際に置きたいと思っている場所を記述した。その内訳は「玄関」が最も多く、次に「トイレ」「風呂」の順となった (第4図)。一方、戸建て住宅居住者で、実際に置きたい場所を書いた人は20% (10人) と少なく、その内訳に一定の傾向がみられなかった (データ略)。

### 4) 室内緑化植物を置いていない理由

室内に植物を置いていない回答者に理由を尋ねたと

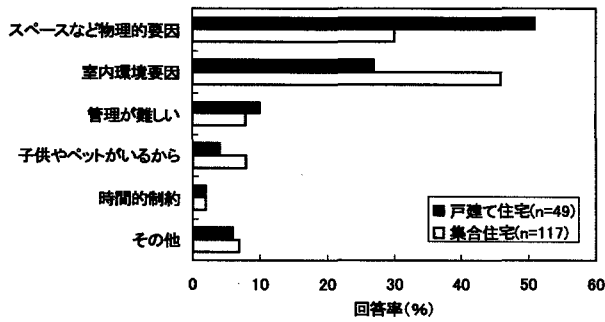


Fig. 3. Reasons given as to why indoor foliage plants could not be placed in locations where respondents reported they wanted to place them (open-ended answers).

第3図. 家庭において置きたい場所に室内緑化植物を置くことができていない理由 (自由記述).

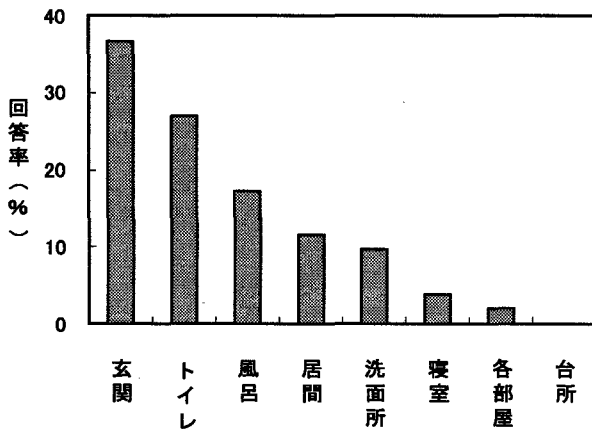


Fig. 4. Locations where apartment dwellers could not place indoor foliage plants in spite of their wishes to place plants (n=52, open-ended answers).

第4図. 集合住宅居住者が室内緑化植物を置きたいと希望しているにもかかわらず置くことができていない場所 (n=52, 自由記述).

ころ、最も多かったのは「枯らしてしまう」(33%)と「手入れが面倒」(33%)であり、続いて「置き場所がない」(29%)、「子どもがいる」(21%)そして「手入れの方法が分からない」(20%)となった(第5図)。「枯らしてしまう」、「手入れが面倒」、「手入れの方法が分からない」など、植物管理に関する回答を一つでも選んだ人は50% (114人) になった(データ略)。家庭での室内緑化を進めるうえで、これら栽培管理の問題が「置き場所がない」(29%)という物理的要因や「日当たりが悪い」(9%)などの環境要因よりも大きな障害となっていることがわかった。

#### 4. 家庭での室内緑化に関する要望

##### 1) 室内緑化植物を選択する際の要素

室内に置く植物を選ぶ場合に重視することを質問した。その結果、最も多かった回答は「育てやすさ」

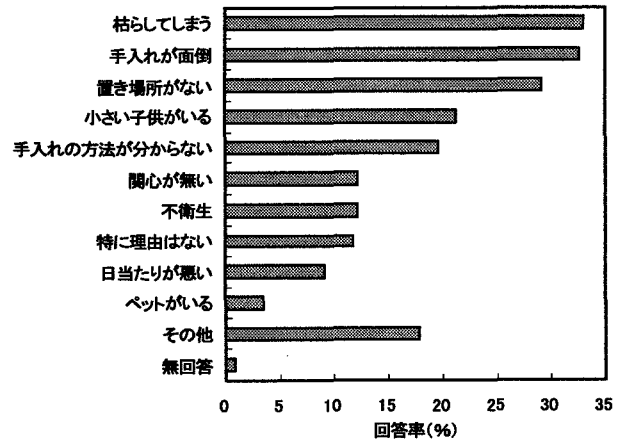


Fig. 5. Reasons respondents did not place indoor foliage plants in homes (n=230, multiple answers).

第5図. 家庭において室内緑化植物を置いていない理由 (n=230, 複数回答).

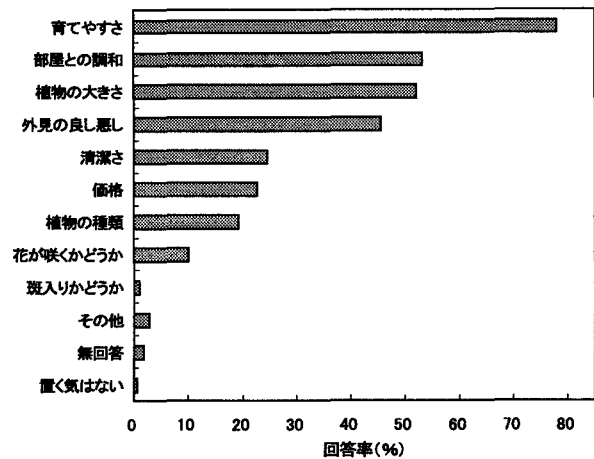


Fig. 6. Factors respondents considered in choosing plants for interior plantscaping in homes (n=688, multiple answers).

第6図. 家庭における室内緑化において植物を選ぶ際に重視する要素 (n=688, 複数回答).

(78%)であり、「部屋との調和」(53%)、「植物の大きさ」(52%)、「外見の良し悪し」(45%)と続いた(第6図)。

##### 2) 植物を置きたい場所

植物を置きたい住まいの空間を複数回答可能な条件で尋ねたところ、「居間」が最多(88%)、ついで「玄関」が64%であり、3番目以降に「トイレ」(28%)、「台所」(27%)、「洗面所」(19%)と水回りのスペースが続いた(データ略)。

室内に植物を置いている回答者の「植物を置きたい場所(要望)」と「植物を置いている場所(現実)」(第2図)を住居形態ごとに比較し、室内植物の配置について示された要望と現実を検討した。その結果、戸建

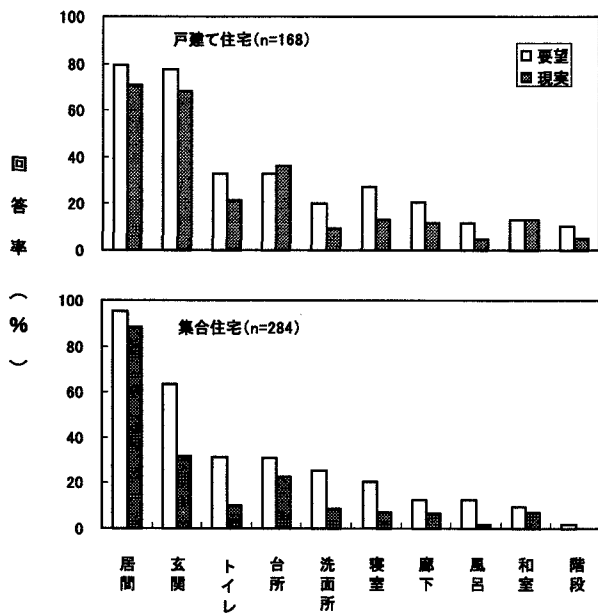


Fig. 7. Differences between wishes and realities of interior plantscaping (multiple answers).  
 第7図. 住居形態別の植物を置きたい場所(要望)と置いている場所(現実)の比較(複数回答).

て住宅, 集合住宅ともにほとんどの項目で「置きたい場所(要望)」の回答率が「置いている場所(現実)」の回答率を上回った(第7図)。「トイレ」, 「洗面所」および「寝室」については, 戸建て住宅, 集合住宅のいずれにおいても「要望」と「現実」の回答率の差が大きかった。また, 特に「玄関」において, 戸建て住宅よりも集合住宅での「要望」と「現実」の回答率の差が大きかった。

### 3) 望ましい植物の高さ

回答者の選んだ「植物を置きたい場所」に望ましい植物の高さを, 選択肢から二つを限度に選択するよう求めた。場所ごとに, 回答率の高かった上位3位までを第3表に示した。居間では「肩の高さ」, 「腰の高さ」, 「目線の高さ, またはそれ以上」の順となり, 比較的背の高い植物が好まれた。和室では「ひざの高さ, またはそれ以下」と「ひざの高さ, またはそれ以下のものを台の上に置く」との回答が多かった。また, 「トイレ」, 「台所」, 「洗面所」, 「風呂」などの水回りには共通した傾向がみられ, いずれも「ひざの高さ, またはそれ以下」が最も多く, ついで「ひざの高さ, またはそれ以下のものを台の上に置く」や「ハンギング」が選ばれた。「玄関」および「寝室」では回答に一定の傾向がみられなかった。

Table 3. Desirable heights of indoor foliage plants for the locations where respondents wanted to place plants (multiple answers).  
 第3表. 回答者が選んだ家庭内の植物を置きたい場所とその場所に望ましい植物の高さ(複数回答).

配置場所	望ましい高さ <sup>a)</sup> (回答率: %)		
居間(n=768)	肩(26)	腰(22)	目線(21)
玄関(n=516)	腰(22)	肩(20)	ひざ(17)
トイレ(n=207)	ひざ(34)	ひざ-台 <sup>b)</sup> (16)	ハンギング(14)
台所(n=209)	ひざ(30)	ひざ-台(19)	目線(9)
洗面所(n=140)	ひざ(35)	ハンギング(14)	ひざ-台(14)
寝室(n=146)	ひざ(18)	肩(18)	腰(17)
廊下(n=110)	腰(30)	肩(24)	目線(13)
風呂(n=74)	ひざ(27)	ハンギング(16)	ひざ-台(9)
和室(n=67)	ひざ(31)	ひざ-台(19)	腰(15)
階段(n=33)	ひざ(12)	ハンギング(12)	腰(5)

<sup>a)</sup>植物の高さの区分は以下の通りとした。

目線: 目線の高さまたはそれ以上, 肩: 肩の高さくらい, 腰: 腰の高さくらい, ひざ: ひざの高さまたはそれ以下。

<sup>b)</sup>上位3項目まで示した。

<sup>c)</sup>台の上に置く。

さ」, 「目線の高さ, またはそれ以上」の順となり, 比較的背の高い植物が好まれた。和室では「ひざの高さ, またはそれ以下」と「ひざの高さ, またはそれ以下のものを台の上に置く」との回答が多かった。また, 「トイレ」, 「台所」, 「洗面所」, 「風呂」などの水回りには共通した傾向がみられ, いずれも「ひざの高さ, またはそれ以下」が最も多く, ついで「ひざの高さ, またはそれ以下のものを台の上に置く」や「ハンギング」が選ばれた。「玄関」および「寝室」では回答に一定の傾向がみられなかった。

### 4) 場所ごとの望ましい植物の種類

回答者の選んだ「植物を置きたい場所」に望ましい植物を, 添付資料に示した16種類(第1表)から選択するよう求めた。ベンジャミンが「居間」, 「玄関」, 「寝室」および「廊下」において最も回答率が高かった(第4表)。特に「居間」では28%という高い回答率であった。また, 「ひざの高さまたはそれ以下」の高さを望ましいとする回答が多かった, 「トイレ」, 「台所」, 「洗面所」, 「風呂」, 「和室」および「階段」のうち, 「台所」以外ではアレカヤシが多く選ばれたが, 「台所」では, ジャックとマメの木と, コーヒーの木(*Coffea arabica* L.)が多かった。

### 5) 室内に置きたい植物

アンケートでは植物を置きたい場所ごとに望ましい植物の高さの選択を求め, その後, その高さごとに望ましい植物を添付資料により選択するよう求めた。それらのデータをもとに, 植物の高さ別に選択された植物(第4表)ごとの選択率(回答率)を算出することにより高さごとの植物選択の志向を探った(第5表)。なお, ここでは配布した添付資料のとおり高さと植物が対応している回答のみを対象とした。その結果, 「目線の高さまたはそれ以上」ではドラセナ・コンキンナ「トリカラー」(*Dracaena concinna* Kunth 'Tricolor')が, 「肩の高さくらい」ではベンジャミンが, 「腰の高さくらい」では青年の樹が, 「ひざの高さ, またはそれ以下」ではアレカヤシ(*Chrysalidocarpus lutescens* H. Wendl.)が置きたい植物として最も多かった。

### 6) 植物を選んだ外観上の理由

「植物を置きたい場所」に望ましい植物(第4表)を選択した理由を「葉の模様」, 「植物の姿」, 「葉の形」および「部屋のイメージに合うから」の中から選択を求めた。その結果, ほとんどの植物で「植物の姿」が最も多く選択された(第8図)。しかし, モンステラ(*Monstera* sp.)とアロカシア(*Alocasia cadierii* Chancier 'Green Velvet')については「葉の形」, クテナンテ(*Ctenanthe burle-marxii* H.Kennedy)は「葉の模様」を選択する回答が最も多かった。

Table 4. Indoor foliage plant types desirable for the locations where respondents wanted to place plants (multiple answers).

第4表. 回答者が選んだ家庭内の植物を置きたい場所とその場所に望ましい植物(複数回答).

配置場所	置きたい植物として回答の多かった植物 <sup>2</sup> (回答率: %)		
居間(n=768)	ベンジャミン (28)	青年の樹(9)	アレカヤシ (8)
玄関(n=516)	ベンジャミン (14)	アレカヤシ (8)	青年の樹(8)
トイレ(n=207)	アレカヤシ (11)	ジャックとマメの木(11)	クテナンテ(10)
台所(n=209)	ジャックとマメの木(11)	コーヒーの木(10)	アロカシア(8)
洗面所(n=139)	アレカヤシ (10)	ジャックとマメの木(9)	アロカシア(9)
寝室(n=146)	ベンジャミン (12)	アレカヤシ (11)	青年の樹(7)
廊下(n=110)	ベンジャミン (13)	サンセベリア(11)	—
風呂(n=74)	アレカヤシ (14)	アロカシア(14)	—
和室(n=68)	アレカヤシ (13)	アロカシア(13)	クテナンテ(9)
階段(n=33)	アレカヤシ (12)	アロカシア(12)	—

<sup>2</sup> 上位3種まで。3位が複数の場合は2位までを示した。  
植物は第1表の16種類から選択することとした。

## 考 察

### 1. 家庭での室内緑化に対する意識

家庭において室内に植物を置いている理由として、「部屋のインテリアとして」や「心が安まる・落ち着くから」が多く挙げられ(第1図), また室内緑化への期待を尋ねた設問でも、「心理的安定効果」や「インテリア性の向上」が多く回答された(データ略)。室内緑化植物を選ぶ場合に重視する要素としても、「育てやすさ」に続いて「部屋との調和」、「植物の大きさ」、「外見の良し悪し」などのインテリア要素が重視されていた(第6図)。

以上から、人々が室内緑化植物をインテリアや癒しの要素として期待し、また利用していることがわかった。また、室内に植物を置いている理由として「空気をきれいにするから」という回答が28%あり(第1図), 室内緑化への期待としても「心理的安定効果」、「インテリア性の向上」について「空気の浄化」(11%)が挙げられ、植物の持つ空気浄化能力への期待感もうかがえた。

一方、室内緑化への期待として「栽培の楽しみ」を答えた人は4%と少なかった。以前にガーデニングについて行われたアンケート調査では「育てることが楽しい」との回答が79%あった(下村ら, 2002)ことから、屋外のガーデニングと室内緑化との意識の違いが示される結果となった。室内緑化では「育てて楽しむ」よりも「置いてその効果を楽しむ」という意識が強いようであった。

### 2. 選択される植物と選択の理由

好きな室内緑化植物としてポトス、ベンジャミン、パキラ、ドラセナ類などが多く回答され、好きな理由としてほとんどの植物で「育てやすい」が最も多かった(第2表)。また、室内緑化植物を選ぶ際に最も重視される要素も「育てやすさ」であった(第6図)。さらに、実際に室内に置かれている植物としてもポトスが最多であり、ついでドラセナ類、パキラ、ヘデラ、ベンジャミンが多かった(データ略)。これらの結果から、家庭内では育てやすい植物が好まれ、また実際に置かれていることが確認された。

今回の調査で置いているとの回答が特に多かったポトスは、つる性で登攀と下垂の双方に利用できるため、ヘゴ付き鉢、ミニ観葉さらにはハンギングなど利用形態も多岐にわたっている。また、剪定に耐え、挿し芽繁殖が容易であり、室内緑化植物の中でも特に低照度への耐性が高い(仁科, 1999)。一番長く育て

■ 植物の姿 ■ 葉の形 □ 部屋のイメージに合うから ■ 葉の模様

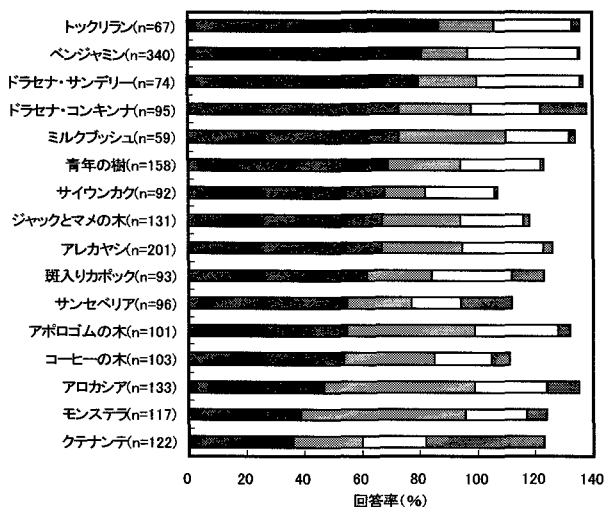


Fig. 8. Reasons respondents chose plants for interior plant-scaping in the locations where they wanted to place plants (multiple answers).

第8図. 家庭内の植物を置きたい場所に望ましい植物とその植物を選んだ外観上の理由(複数回答).

### 5. 家庭における室内緑化への期待と不安

室内に植物を置くうえで期待することおよび不安なことについて自由記述で回答を求めた。期待することとして614件、不安なこととして680件の回答が得られた(データ略)。期待することとして特に多かったのは、「心が落ち着く」、「心がやすらぐ」、「リラックス効果」などの心理的安定効果(41%)であった。ついで「部屋の雰囲気がよくなる」や「部屋のインテリアとして」といった「インテリア性の向上」(18%)が多かった。また、その次に「空気の浄化」(11%)が挙げられた。「身体的効果」(5%)として分類した意見のほとんどは「緑が目が良い」であった。「栽培の楽しみ」は4%であった。

不安なこととしては「枯らしてしまう・手入れの方法が分からない」(33%)などの管理面での不安が最多

Table 5. Indoor foliage plants desirable for interior plantscaping in groups classified on plant height (multiple answers).

第5表. 植物の高さ別にみた家庭の室内に置きたい植物 (複数回答).

植物の高さ	室内に置きたい植物 <sup>2</sup> (回答率: %)			
目線の高さ またはそれ以上 (n=125)	ドラセナ・ コンキンナ (32)	ドラセナ '細葉 サンデリー' (26)	斑入り カボック (22)	アポロ ゴムノキ (21)
肩の高さくらい (n=207)	ベンジャミン (72)	トックリラン (11)	サイウンカク (9)	モンステラ (8)
腰の高さくらい (n=160)	青年の樹 (39)	サンセベリア (24)	アロカシア (19)	コーヒーの木 (18)
ひざの高さ またはそれ以下 (n=285)	アレカヤシ (36)	ジャックと マメの木 (28)	クテナンテ (25)	ミルク ブッシュ (11)

<sup>2</sup>植物は第1表の16種類から選択.

ている植物を問う質問にポトスの回答が最多であるとのアンケート結果 (積水ハウス総合研究所納得工房, 2000) もある。これらのことから、ポトスは最も育てやすい室内緑化植物として多くの家庭で広く利用されているものと考えられる。

また、植物を好きな理由として「育てやすい」について多かったのは「植物の姿」であった (第2表)。室内緑化植物を選んだ外観上の理由としても、ほとんどの植物で「植物の姿」が最も多く挙げられており (第8図)、室内緑化植物では植物全体の姿が重視されているものと考えられた。第3表、第4表および第5表のデータはアンケート添付資料の植物のカラー写真を見せて、望ましい植物の高さおよび種類の選択を求めた結果を示しており、回答者の植物の外観についての要望を反映していると考えられる。高さについては、「居間」には比較的背の高い植物が好まれ、「和室」には部屋に滞在する際を目線の高さを意識して、背の低い植物が望まれていることがうかがえた (第3表)。「トイレ」、「台所」、「洗面所」および「風呂」などの水回りには、スペースに余裕がないためか、小さな植物やハンギングが希望されていた。場所ごとの望ましい植物として、ほとんどの場所でベンジャミンやアレカヤシが多く選ばれたが、「台所」では、ジャックとマメの木と、コーヒーの木が多く、インテリアとして置きたい植物のイメージが「台所」は他の場所とは異なるようであった (第4表)。以上により、各室内空間それぞれに、大きさや外観などが調和する植物が求められていることがわかった。

植物の高さ別にみた室内に置きたい植物 (第5表) について、第1表を参考にそれら植物の形態的特徴を探った。その結果、好まれる植物のドラセナ・コンキンナ、青年の樹およびアレカヤシは植物体が細長く、葉身が細く垂れ下がっており、またベンジャミンは葉

身が小さく、枝が垂れ下がる形態であった。一方、置きたい植物としての回答の少なかったサイウンカク (*Euphorbia trigona* Haw.) とミルクブッシュ (*Euphorbia tirucalli* L.) は植物体が細長くとがっており、モンステラは葉身が広く大きい点で目立っている。仁科 (1998) が観葉植物各種の印象を調査した結果、「置きたい」植物は「心が落ち着く」植物として評価され、また、「置きたくない」植物は「冷たい」、「緊張感のある」植物として判断された。本研究で室内に植物を置く理由として「心が安まる・落ち着くから」が多く回答された (第1図) ことも考慮すると、家庭の室内緑化には、垂れ下がった枝葉や小さな葉というような、柔らかいテクスチャの植物が、心を落ち着かせる植物として好まれ、とがった葉、大きな葉などの形状をもつ植物は敬遠される傾向があるのではないかと推察された。

特にベンジャミンは家庭内の様々な場所に対して望ましい植物として回答され (第4表)、室内に置きたい植物として集計された結果においても特に回答率が高かった (第5表)。さらに、好きな室内緑化植物を尋ねた設問においてもポトスについて2番目に高い回答率を得た (第2表)。また、好きな理由として、他の植物では「育てやすい」が最も多いにもかかわらず、ベンジャミンでは「植物の姿」が最多であった。仁科 (1998) が被験者を用いて室内で行った、各種観葉植物の印象の評価実験においても、ベンジャミンが「置きたい植物」および「おしゃれな植物」の項目で最も高く評価されており、ベンジャミンについては、育てやすさ以上に植物体の形状に魅力を感じる人の多いことが示唆された。

### 3. 植物の置き場所

植物の置き場所は、戸建て住宅では「居間」と「玄

関」がともに多かったのに対し、集合住宅では「居間」が特に多く、「玄関」は戸建て住宅に比べ極端に少なかった(第2図)。また、戸建て住宅居住者よりも集合住宅居住者で「置きたいと思う場所に植物を置くことができていない」と回答した人が多く(データ略)、その理由は日当たりなどの室内環境要因が最多であった(第3図)。集合住宅では南側に配置されることの多い「居間」を除いて光条件や空間条件が不十分であるため、その結果として「居間」に集中して植物が置かれていたものと推察された。また、集合住宅居住者が置きたいと思いつながら置くことができていない場所は「玄関」が最も多く(第4図)、さらに「植物を置きたい場所(要望)」と「植物をおいている場所(現実)」の違いの比較においても、特に集合住宅の「玄関」で「要望」と「現実」の差が大きかった(第7図)。これらの結果より、集合住宅居住者も戸建て住宅居住者同様、「玄関」に植物を置きたいという要望を持っているにもかかわらず、実現できずにいる実態が明らかとなった。集合住宅の「玄関」は遮蔽性が高く、戸建て住宅のような明かり採りの仕組みがないことが原因であると推測され、今後の集合住宅設計の課題であると考えられた。

また、「植物を置きたい場所(要望)」と「植物をおいている場所(現実)」を比較すると、戸建て住宅、集合住宅ともにほとんどの項目で「要望」の回答率が「現実」の回答率を上回っていた(第7図)。これにより、すでに室内に植物を置いている人も、現状に満足しておらず、さらに別の部屋にも植物を置きたいと希望していると考えられた。戸建て住宅、集合住宅ともに、「トイレ」、「洗面所」および「寝室」において「要望」と「現実」の回答率の差が大きく、これらの空間にも植物を置きたいという要望があることが示唆された。これらの場所は光条件、空間条件が不十分であるために植物を置くことができていないと推察され、今後、家庭における室内緑化をさらに充実させるためには、室内緑化植物の置き場所を意識した住宅設計の検討・考案が望まれる。

#### 4. 栽培管理の問題点

室内に植物を置いていない回答者はその理由として、「枯らしてしまう」、「手入れが面倒」など、植物管理に関する回答を多く挙げた(第5図)。また、室内緑化への不安としても、「枯らしてしまう・手入れの方法が分からない」などの管理面での不安が最多であった(データ略)。室内緑化植物として販売されているいわゆる観葉植物はその種が多岐にわたり、好適な生育環境は種ごとに異なる(Harrisら, 1998)ものの、利用者にはそれらの知識が不足していると思われる。生産者や販売店などが植物の性質や栽培管理方法を提示し、室内空間ごとの環境に適した植物の提案を

行うことの必要性が示唆された。そのためにも、家庭の室内空間における、人工光を含めた光環境と各種植物の生育との関係を長期的に調査し、低照度下で利用可能な室内植物を整理することが必要であろう。

### 摘 要

人々の居住空間における室内緑化植物の利用実態および室内緑化に対する意識を戸建て住宅と集合住宅の住民を対象に、アンケートにより調査した。67%の人が室内に植物を置いており、その理由として「インテリアとして」(69%)や「心が安まる」(61%)が多く挙げられ、「空気の浄化」(28%)にも期待が示された。植物を置いている場所および置きたい場所のいずれも、「居間」が最も多く、ついで「玄関」が多かった。しかし、置いている人のうち37%は、「スペースがない」、「日当たりが悪い」などの理由から置きたい場所に置くことができていない実態が明らかとなった。特に集合住宅の「玄関」については、置きたいという希望が多いにもかかわらず、採光や日当たりなどの環境要因により、置くことが困難な場合が多く、住宅設計の課題と考えられた。植物の種類としては、ポトスのような育てやすい植物が好まれ、広く利用されていた。また、各室内空間それぞれに、大きさや外観などが調和する植物が求められており、特にベンジャミンがその姿の良さから好まれていた。一方、多くの人が「枯らしてしまう」、「手入れの方法がわからない」など、栽培管理について不安を感じており、そのことが室内植物を置いていない主要な要因にもなっていた。以上から各室内空間の環境に合う植物の提案やその栽培管理方法の解明と普及が課題であると考えられた。

### 引用文献

- 浅海英記・仁科弘重・塚西 圭・増井典良・橋本康. 1994. 観葉植物が室内の温熱環境および温熱快適性に及ぼす影響 - 冬期における実験による解析 -. 建築学会計画系論文集 464: 39-46.
- 浅海英記・仁科弘重・中村博文・増井典良・橋本康. 1995. 観葉植物を見ることがVDT作業に伴う視覚疲労に及ぼす影響. 植物工場学会誌 7: 138-143.
- Fjeld, T. 2000. The effect of interior planting on health and discomfort among workers and school children. HortTechnology 10: 46-52.
- Harris, C. W., N. T. Dines and K. D. Brown. 1998. Time-saver standards for landscape architecture. pp. 620/14-620/17. McGraw-Hill, New York.
- 今西弘子・生尾昌子・稲本勝彦・土井元章・今西英



- 雄. 2002. 植物の存在がオフィスで働く人々に与える心理効果. 園学研. 1 : 71-74.
- Lohr, V. I. and C. H. Pearson-Mims. 2000. Physical discomfort may be reduced in the presence of interior plants. *HortTechnology* 10 : 53-58.
- 仁科弘重・中本有美・渡森 里・増井典良・橋本康. 1998. 観葉植物が人間の心理に及ぼすアメニティ効果の脳波びSD法による解析. 植物工場学会誌 10 : 65-69.
- 仁科弘重. 1998. グリーンアメニティ[2]—人間の感性から考える室内緑化—. 農業および園芸 73 : 1270-1277.
- 仁科弘重. 1999. グリーンアメニティ[3]—人間の感性から考える室内緑化—. 農業および園芸 74 : 34-40.
- Pearson-Mims, C. H. and V. I. Lohr. 2000. Reported impacts of interior plantscaping in office environments in the United States. *HortTechnology* 10 : 82-86.
- 積水ハウス総合研究所納得工房. 2000. 納得工房来館者アンケート調査報告書 観葉植物について編. 京都.
- 下村 孝・中尾幸彦・筒井句子. 1988. 商業空間におけるインテリア材料としての観葉植物の利用と役割. 造園雑誌 51 : 114-119.
- 下村 孝・船越ゆう紀・高橋ちぐさ. 2002. 園芸愛好家などへのアンケート調査によるガーデニングゲームの実態調査. 日農教誌. 33 : 65-74.
- Yoo, M. H., Y. J. Kwon and K. Son. 2006. Efficacy of indoor plants for the removal of single and mixed volatile organic pollutants and physiological effects of the volatiles on the plants. *Amer. Soc. Hort. Sci.* 131 : 452-458.